

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：34310

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02642

研究課題名(和文)イラン出土楔形文字新言語資料 - 新しい言語データの提出とその言語学的分析

研究課題名(英文)Cuneiform Texts from Iran - New Data and its Linguistic Analysis

研究代表者

森 若葉 (Mori, Wakaha)

同志社大学・研究開発推進機構・共同研究員

研究者番号：80419457

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：イラン国立博物館において、3Dモデルデータを活用し、未公開の資料(古代イラン(エラム地域出土)、紀元前三千年半ば～紀元前二千年紀のエラム語、シュメール語資料)の調査研究を行った(Mori (2016, 2020))。約百点のアンシャン資料については、公刊準備をすすめており、研究分担者、共同研究者とともに研究を行い、2019年9月にイラン国立博物館にその手写コピー、翻字のデータを提出した。今年度末には、京都大学総合博物館所蔵楔形文字粘土板資料について、翻字・翻訳を付して出版の予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

イラン国内で所蔵される前三千年紀末から前二千年紀のシュメール語およびエラム語楔形文字文書は世界の楔形文字研究にとって重要な資料群である。これらを新たに公刊することには非常に大きな意義がある。イラン国内には楔形文字の文献研究者が非常に少なく、昨今の国際政治情勢により、1970年代の欧米による発掘の後、未公開の状況におかれているものがいまだ数多くある。本研究はイランに対する日本による国際文化協力と位置づけられ、日本とイランの間で長年培われてきた友好的な学術・研究関係の発展につながるものである。

研究成果の概要(英文)：In this study, we researched unpublished cuneiform texts excavated in Iran, written in Elamite and Sumerian, from the end of the third millennium BC to the second millennium BC, utilizing 3D models (Mori 2016, 2020). Together with the co-investigators, we have continued to publish approximately 100 Anshan tablets and submitted the research data, including photographs and transliteration, to the National Museum of Iran last September.

At the end of this fiscal year, I am planning to publish the cuneiform texts stored in the Kyoto University Museum with transliterations and translations.

研究分野：楔形文字学、シュメール学、言語学

キーワード：楔形文字学 シュメール学 シュメール語 エラム語 アンシャン マルヤン遺跡 粘土板 楔形文字

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

イラン出土楔形文字新言語資料 - 新しい言語データの提出とその言語学的分析

1. 研究開始当初の背景

京都大学大学院文学研究科とイラン国立博物館の MOU に基づいて、研究代表者は、イラン国立博物館所蔵の未公開の楔形文字資料(古代イラン・エラム地域出土、紀元前三千年半ば～紀元前二千年紀のエラム語、シュメール語、アッカド語資料)の調査研究に参加し、とくにアンシャン(マルヤン遺跡)出土資料を中心に調査を行ってきた。

2. 研究の目的

未公開の楔形文字粘土板資料の調査・出版することにより、新しい言語データを提出し、その言語学的研究を行うことを目的とする。調査研究対象とする資料は、イラン国立博物館および、京都大学総合博物館所蔵の楔形文字資料である。

当時(紀元前三千年紀から紀元前二千年紀前半)、古代メソポタミア文明の中心地域であったシュメール地域から見て、エラムの都市スサとアンシャンは、その東方に位置する。スサは、シュメールから東へ約 200km にあり、地理的・政治的に近い関係にある。一方、アンシャンは約 500km とやや離れているが、紀元前 2,000 年頃には、シュメール最盛期ウル第三王朝期第 2 代王シュルギが自分の娘である王女を輿入れさせるなど、やはり歴史的にかかわりがあることがわかっている。当時のアンシャンとスサはともにエラム語が話されていた地域であるが、アッカド語とシュメール語も書記言語として用いられていた。これらの資料は、古代の多言語社会、複数の書記言語が学校で習得されていた社会における言語使用状況を知ることができる貴重な言語研究データである。

3. 研究の方法

本研究では、未公開楔形文字資料にかんし、手写コピーを作成し、翻字・翻訳を行うものである。写真のほか、研究協力者により作成された 3D モデルデータを併用することにより、保存状態の悪い粘土板の楔形文字にかんし、より精密な解読を行った。その使用語彙、文字体等の分析を行い、その粘土板の作成者および作成地の推定を試みた。

4. 研究成果

その成果は、2020 年にテヘランから、Mori, W. "Three Sumerian Texts of the National Museum of Iran: an Ur-Namma Inscription, an Administrative Fragment and a Bulla", *Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies*. National Museum of Iran (in print). が出版されるほか、研究分担者の前川和也氏(国士館大学 / 京都大学)ほか、数人の研究者と共同で研究を行い、約百点のアンシャン資料(紀元前三千年紀・紀元前二千年紀のエラム語、シュメール語の資料)の公開準備をすすめており、2019 年 9 月にイラン国立博物館にその手写コピー、翻字のデータを提出した。右は、イラン出土の楔形文字資料の手写コピー(イラン国立博物館所蔵シュメール語王碑文断片 BK357, Mori 2020)である。翻字は、下記の通り、欠損部分は復元し、シュメールウル第三王朝初代王の名前を推定できる。その字体から、現イラク南部に位置する当時のシュメール中心部から、現在のイラン・ファルス州にあったアンシャンに持ち込まれたと推定されるものである。

< 翻字 >

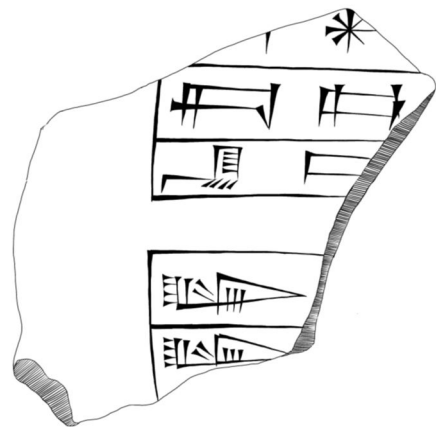
1') [u]r-[d]namma], 2') nita-kalag[-ga], 3') en un[ug^{ki}-ga],
(blank), 4') lugal-[uri^{ki}-ma], 5') lugal-[ki-en-gi-ki-uri-ke₄]

< 翻訳 >

「... ウルナンマ、強い男、ウルクの君主。ウルの王、シュメールとアッカドの王が...」

研究代表者は、イランにおいて、文献を研究し、翻字・翻訳に携わるほか、楔形文字資料を管轄する碑文部門長である考古学者のピラン氏の協力のもと、粘土板に記される楔形文字という特殊な言語資料について最適で有効な発表方法を検討した。とくに粘土板の 3D モデル化について、粘土板文書を専門とする文献研究者の立場から、

文化財科学の研究者と綿密に連携し、粘土板という平面ではない文献について、いかに楔形文字資料を有効にデジタルデータ化するかという研究にかかわってきた(招待講演: Mori, W. and H. Teramura, "Malyan Tablets in the National Museum of Iran - Application of 3D Modelling to Cuneiform Sources." Japan-Iran Cultural Heritage Research Symposium. Sep. 17. 2016. National Museum of Iran. National Museum and Research Center for Preservation of Cultural Heritage, Tehran)。



エラムの中心都市の1つであるアンシャン資料には、現地で話されていたエラム語のほかに、シュメール語やアッカド語で記されたものが含まれている。資料の内容も様々であり、多くのジャンルが含まれている。このうち、行政経済文書、王碑文の多くは、その書記法、文字特徴にアンシャンの独自性が見られるのに対し、一部の資料については、文字体や外形が異なるものが確認された。シュメール語資料のなかには、現地で作成されたと推定されるもののほかに、文字体や文法要素から、シュメール中心地域から持ち込まれたと考えられる資料が存在する（Mori (2016, 2020)）。

2019年夏のテヘランでの調査で、アンシャン出土文書のうち、エクササイズタブレットとよばれる当時の学校で用いられた粘土板（語彙リストや数表など）は、同じくエラム王国の重要都市であるスサから出土したものと極めて近い書体・書式で書かれたものが確認された。これら資料については、引き続き調査を進め、該当の粘土板について、作成地を同定するために、非破壊の検査を行うことを同博物館と検討中である。また、今年度末には、京都大学総合博物館が所蔵する50枚あまりのシュメール語およびアッカド語の楔形文字粘土板資料について、それぞれの粘土板の写真・手写テキスト、翻字・翻訳を付して出版の予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 森 若葉	4. 巻 87
2. 論文標題 京都大学総合博物館所蔵楔形文字粘土板資料（1） - 古バビロニア時代不動産売買文書	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 西南アジア研究	6. 最初と最後の頁 47-57
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計7件（うち招待講演 1件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Kenji Yamauchi, Hajime Yamamoto and Wakaha Mori
2. 発表標題 Building A Handwritten Cuneiform Character Imageset
3. 学会等名 LREC 2018 MIYAZAKI（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 京都大学総合博物館所蔵未公開粘土板資料 - 古バビロニア不動産売買文書
3. 学会等名 第24回西アジア言語研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 楔形文字 字形と構成の特徴
3. 学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「アジア文字研究基盤の構築1」2017年度第2回研究会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wakaha Mori and Hirofumi Teramura
2. 発表標題 Malyan Tablets in the National Museum of Iran - Application of 3D Modelling to Cuneiform Sources
3. 学会等名 Japan-Iran Cultural Heritage Research Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 山内健二、森 若葉、山本 孟
2. 発表標題 楔形文字文献の形態論情報付きコーパス構築の自動化に向けて
3. 学会等名 言語処理学会第23回年次大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 森 若葉、山本 孟
2. 発表標題 京都大学総合博物館所蔵の粘土板についての予備調査
3. 学会等名 第59回シュメール研究会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 森 若葉
2. 発表標題 ウム アル・アカリブ(ギシャ[“ウンマ”])出土レキシカルリストについて
3. 学会等名 第62回シュメール研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 森 若葉	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都大学総合博物館	5. 総ページ数 1
3. 書名 考古図録 京都大学総合博物館収蔵資料目録第3号	

1. 著者名 Wakaha Mori	4. 発行年 2020年
2. 出版社 National Museum of Iran	5. 総ページ数 14
3. 書名 Three Sumerian Texts of the National Museum of Iran: an Ur-Namma Inscription, an Administrative Fragment and a Bulla." Ancient Iran: New Perspectives from Archaeology and Cuneiform Studies. National Museum of Iran	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	前川 和也 (Maekawa Kazuya) (60027547)	国士舘大学・イラク古代文化研究所・研究員 (32616)	